

2005年6月10日

株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
2-5 F・Kビル  
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
広報部 03-3664-5697

## 抗リウマチ剤、骨粗鬆症治療剤など医療用医薬品 14 薬効分類の調査を実施

- 抗リウマチ剤は 2006 年に 500 億円規模へ (対 04 年比 157%) -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、医療用医薬品 5 領域(関節・骨疾患治療剤、女性疾患治療剤など)の 14 薬効分類(抗リウマチ剤、骨粗鬆症治療剤など)について、疾患概要、患者動向、治療薬剤、市場概況、開発状況などを調査し、その結果を報告書「2005 医療用医薬品データブック NO.6」にまとめた。

また、本報告書では、2004 年 3 月発表の NO.1 から今回の NO.6 までの医療用医薬品市場合計 24 領域の集計も行い、日本の医療用医薬品市場を明らかにした。

### < 調査結果の概要 >

#### 1. 日本の医療用医薬品市場(24 領域)

**2004 年 約 5 兆 5,846 億円 2005 年(見込) 5 兆 7,239 億円(対前年比 102%)**

日本の医療用医薬品市場は 2004 年に 5 兆 5,800 億円を超えたと見られ、2005 年は 2% 程度の伸びが見込まれる。僅かながらプラス傾向で推移している。従来まで日本の医療用医薬品市場の成長を支えていた抗生物質や高脂血症治療薬は、市場が縮小傾向にある。徐々にではあるが、行政による医療費削減やジェネリック品の促進といった動きが、影響を及ぼし始めている。糖尿病治療剤・糖尿病合併症治療剤、及び認知症治療剤といった領域は、着実に患者数が増加しており、市場の顕著な伸長が見られる。また、抗うつ剤や COPD 治療剤といった領域は、新薬が登場することで医療現場だけでなく、患者に対し疾患としての認知が高まることで市場の拡大が予測される。また、今回の調査で取り上げた抗リウマチ剤や骨粗鬆症治療剤が新薬の登場によって高い成長性を示している。

(2004 年は一部見込値を、2005 年は一部予測値を含む)

#### 2. 対象 5 領域 14 薬効分類市場

今回調査対象の 5 領域の市場規模は、2004 年に 5,463 億円となった。関節・骨疾患治療剤、泌尿器疾患剤の安定した市場拡大により 2006 年には 10% 増の 6,019 億円に達すると予測される。従来、医薬品市場として注目度が低かった抗リウマチ剤や骨粗鬆症治療剤を始めとする関節・骨疾患治療剤市場が、近年になり新薬が相次いで登場したことで、治療薬の位置付けが新たになり高い成長性を示している。

薬効領域	2004 年	2006 年予測	06 年 / 04 年
関節・骨疾患治療剤	2,823 億円	3,225 億円	114%
女性疾患治療剤	361 億円	359 億円	99%
泌尿器疾患治療剤	1,097 億円	1,230 億円	112%
ヒト成長ホルモン剤	459 億円	455 億円	99%
漢方製剤	723 億円	750 億円	104%
5 領域合計	5,463 億円	6,019 億円	110%

#### 関節・骨疾患治療剤

関節・骨疾患治療剤市場は、骨粗鬆症治療剤と外用消炎治療剤が中心となっている。近年では、新薬が相次いで発売された抗リウマチ剤市場にも注目が集まっている。骨粗鬆症治療市場は、高齢化による患者数の増加や潜在患者への疾患教育などで、市場の活性化が図られ拡大基調に転じている。その他、外用消炎鎮痛剤市場は、関節症やリウマチに伴う痛みやスポーツ外傷など痛みに対する対症療法が中心となっている。

#### 女性疾患治療剤

女性疾患治療剤は発売後 20 年以上経過する薬剤を中心に構成されている市場である。そのため薬価の引き下げ

やジェネリック品の影響を受け、市場全体は縮小傾向である。子宮筋腫・子宮内膜症治療剤は薬価の引き下げや、低容量ピルへの処方シフトの影響から販売が減少している。更年期障害は、薬物療法を受けていない潜在患者が多く存在すると考えられる。ホルモン補充療法の普及が進んでいないため、更年期障害治療剤市場は停滞している。経口避妊薬は、ピルの効能に関する積極的なPR活動によって、順調に処方件数が増加している。しかし、当初見込んだ普及率には達していない。

#### 泌尿器疾患治療剤

前立腺肥大症治療剤、頻尿・尿失禁治療剤及び性機能改善剤の市場は、安定成長している。性機能改善剤は、市場がまだ形成され始めたばかりであり、今後参入企業は一般消費者に直接的にプロモーションを行うなど、潜在患者の掘り起こしを活発に行っていく計画である。

#### ヒト成長ホルモン剤

保険適応の対象となっているのは、ホルモン異常による低身長症と成長ホルモン分泌不全性低身長症、ターナー症候群、慢性腎不全性低身長症、軟骨異常栄養症、プラダーウィリー症候群による低身長だけである。低身長の子供の中で、治療の対象となるのは5%以下であるとされている。少子化の進行もあり、適応疾患が小児向けであることから、市場は縮小傾向にある。

#### 漢方製剤

西洋医学的アプローチだけでは対応しきれない患者をカバーする治療方法としてだけでなく、患者サイドからも漢方療法への期待が表明されるような時代となりつつある。副作用問題などのマイナス要因が新たに発生しなければ、高齢化の進行と共に漢方製剤を服用する患者は増えるものと考えられる。文部科学省が医学部でのコア・カリキュラムに東洋医学・漢方医学を取り入れていることや大学病院で漢方外来科を設置するケースが増えていることから、着実な成長が予測される。

#### <注目市場動向>

#### 骨粗鬆症治療剤 2004年 1,123億円 2006年予測 1,300億円(04年比 116%)

骨粗鬆症は閉経後の女性が主な患者であることから、高齢化社会の進展により患者数は更なる増加が見込まれている。潜在患者の掘り起こしや非専門医や開業医へのガイドラインの普及が市場拡大に大きく影響すると考えられる。

市場は、80年代から90年代中頃までに発売された製品を中心に、成熟期を迎えていた。2000年以降ビスホスホネート製剤やSERMなど新たな作用機序の製品が武田薬品工業や中外製薬などの大手から相次いで発売されたことで市場が活性化され、再び1,000億円を超える市場となった。

#### 抗リウマチ剤 2004年 319億円 2006年予測 500億円(04年比 157%)

リウマチは、高齢の女性に発病が多いことから、患者数は増加傾向にあるが、大幅な市場拡大につながっている訳ではない。従来は、新薬が継続的に発売されていたが、大型品には至らず微増傾向であった。しかし、2003年に「レミケード」(田辺製薬) 2005年に「エンブレル」(ワイス-武田薬品工業)といった生物学的製剤の投与がリウマチ治療に可能となったことで、治療パターン・市場ともに変革期を迎えている。

アメリカリウマチ学会のガイドラインでは、専門医だけでなく一般内科医でも早期診断による早期でのDMARDs(注1)の投与が推奨されている。現状では専門医におけるDMARDsの積極的な処方が市場を拡大させている要因となっている。現在、整形外科学会や厚生労働省を中心として国内の症例を集めている段階にある。

海外でのガイドラインや臨床例で、解熱消炎鎮痛剤による対症療法だけでなく、早期の抗リウマチ剤投与の有効性が示されていることから、日本でも抗リウマチ薬による早期段階での治療の重要性が高まり、MTX、生物学的製剤を中心に増加することが予測される。

また行政側にとっても介護段階に至る前に抗リウマチ剤を投与することは、医療費の削減や患者サイドにメリットがあるという方向を示している。抗リウマチ薬は、国内でガイドラインを確立していくことで市場を伸ばしていく事が予測される。現在、抗リウマチ剤市場は専門医の処方を中心として伸長している。プロモーションが活発化しており、一般内科医やリウマチを専門としていない整形外科医において抗リウマチ剤の広がり、リウマチ治療における病診連携が、抗リウマチ剤市場に大きな影響を及ぼすことが予測される。

(注1) DMARDs (Disease Modifying ant rheumatic Drugs) ・ ・ 免疫調整作用を期待して投与される抗リウマチ剤

#### <調査対象>

##### 1. 関節・骨疾患治療剤

- 1) 抗リウマチ剤 2) 骨粗鬆症治療剤 3) 変形性関節症治療剤 4) 外用消炎鎮痛剤

2. 女性疾患治療剤

- 1) 子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 2) 経口避妊薬 3) 排卵障害治療剤 4) 切迫早産治療剤、陣痛促進剤
- 5) 更年期障害治療剤、月経障害治療剤

3. 泌尿器疾患治療剤

- 1) 前立腺肥大症治療剤 2) 頻尿・尿失禁治療剤 3) 性機能改善剤

4. ヒト成長ホルモン

5. 漢方製剤

<調査方法>

富士経済専門調査員による対象企業関連企業・団体へのヒヤリング調査及びオープンデータの活用

<調査期間>

2005年3月～2005年5月

<報告書『医療用医薬品データブック』の構成>

NO.1～NO.6の全6巻で計24領域69薬効の医療用医薬品市場を調査。NO.1～NO.3は2004年3月～6月、NO.4は2005年2月、NO.5は3月に刊行。

急激に変化する医療用医薬品市場を薬効分類ごとに、EBM・ガイドライン、患者数、製品及び企業のマーケティング力などの多面的ファクターで分析している。

<b>NO.1 2領域10薬効分類</b> 循環器官用剤(降圧剤、各種梗塞治療剤・血栓溶解剤・血管拡張剤、心不全治療薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬)、 感染症治療薬(抗生物質、抗ウイルス剤、抗真菌剤、ワクチン製剤)
<b>NO.2 3領域13薬効分類</b> 精神神経疾患治療薬(抗不安薬・睡眠導入剤、抗うつ剤、統合失調症治療剤、他の向精神薬、抗パーキンソン病剤、 抗てんかん剤、片頭痛治療剤) 脳疾患治療剤(抗痴呆剤、脳血管障害治療薬) 消化器官用剤(消化性潰瘍・逆流 性食道炎・胃炎・Hp除菌・肝疾患治療剤、膵疾患治療剤、その他消化器関連用剤)
<b>NO.3 4領域11薬効分類</b> 抗アレルギー剤、感覚器官用剤(眼科用剤、その他点鼻・点耳剤) 皮膚疾患治療剤(外用抗菌剤、外用抗アレルギー剤、 アトピー性皮膚炎治療薬、褥瘡治療剤) 呼吸器疾患治療薬(喘息治療剤、COPD治療剤、鎮咳去痰治 療剤、消炎酵素・感冒薬・その他呼吸器疾患治療剤)
<b>NO.4 4領域9薬効分類</b> 高脂血症治療剤、代謝系疾患治療剤(糖尿病治療剤、糖尿病合併治療剤、痛風・高尿酸治療剤、抗肥満薬) 解熱 消炎鎮痛剤(非ステロイド系消炎鎮痛剤、ステロイド系消炎鎮痛剤) 血液関係薬剤(貧血治療剤、血液製剤、止 血剤)
<b>NO.5 6領域12薬効分類</b> がん関連用剤(抗がん剤、CSF、制吐剤、癌疼痛治療剤) 栄養補助剤(輸液製剤、経腸栄養剤、ビタミン剤)、 麻酔・筋弛緩剤(麻酔用剤、筋弛緩剤) 免疫抑制剤、体内診断薬、消毒薬

以上

資料タイトル:「2005 医療用医薬品データブック NO.6」
体 裁 : A4判 249頁
価 格 : 160,000円(税込み168,000円)
2冊セット価格 (NO.4・NO.5) 300,000円(税込み 315,000円)
(NO.4・NO.6) 300,000円(税込み 315,000円)
(NO.5・NO.6) 300,000円(税込み 315,000円)
3冊セット価格 450,000円(税込み 472,500円)
3冊セット価格+CD-ROM版 460,000円(税込み 483,000円)
調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第三事業部
TEL:03-3664-5831 (代) FAX:03-3661-9778
発 行 所 : 株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル
TEL 03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:http://www.group.fuji-keizai.co.jp